

「もういっくつ寝ると…」

吉田 眞人

「もう幾つ寝ると…」の次に来るフレーズは、平均的日本人にとっては「お正月」で、新暦（太陽暦）の新年が最大の季節行事である。しかし世界をみると、これは圧倒的少数派だ。

中華圏（含韓国、ベトナム）では、旧暦（太陽太陰歴）の新年が最大行事である。春節とも呼ばれる。来年の新年は30日後の新暦1月22日である。旧暦では約3年ごとに閏月があるので、新年も毎年少しずつずれる。

キリスト教国の重要行事のクリスマスは、あと3回寝ると当日だ。ロンドンでは全ての交通機関（地下鉄、鉄道、バス、タクシー）がストップする。近くの教会に行けというわけだが、キリスト教徒の割合が半分以下になっているのに、見直しは殆ど進んでいない。（最近はタクシーが少数営業。料金2倍）子供達お待ちかねのプレゼントは、イブにサンタクロースが運んでくるのが一般的だが、スペイン語圏では年明けの1月5日に『東方の3賢人』が持ってくる。

クリスマスに優る重要行事がイースター（復活祭）で、春分を過ぎた最初の満月後の最初の日曜日、来年は4月9日である。ドイツ勤務時、ギリシャ出身のスタッフがいいた。彼女は、ドイツのイースターから約1ヶ月後に帰省し、親族と共に祝うという。西方教会と東方正教会では時期が違い、ややこしい。東方正教ではユリウス歴に基づいた日を採用しており、数日から一ヶ月の差が出る。

イスラム諸国ではヒジュラ暦（太陰暦）が用いられている。次の新年は1445年で新暦の7月19日である。ただし新年よりもハジ（犠牲祭・ヒジュラ暦12月10日）やラマダーン（断食祭・同9月）が重要視される。

インドでは様々な暦が使われていたが、1957年統一暦として「インド国定暦（太陽暦）」が採用された。ここでもヒンズー暦（太陽太陰歴）第7番目の月の初日から5日間にわたり祝われる「デイワリ」が最重要行事である。来年は新暦11月12日が初日。

さて少数派の日本人として、あと10回寝て、新年を祝うことにしよう。

（2022年12月22日）